

請 願 文 書 表

受付番号	第2号
受付年月日	令和2年11月25日
件名	国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進を求める請願
請願者	三田市 [REDACTED] 新日本婦人の会三田支部 支部長 松原 慶子
要旨	<p>< 請願の趣旨 ></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大による長期休校後の学校再開への移行段階で「3密」を避けるためにクラスの2分の1程度で授業をする分散登校や時差登校が行われたところ、20人程度で授業を受けた子どもたちからは「いつもより勉強がよくわかった」「手を上げやすかった」などの声が聞こえ、教職員からも「ゆとりをもって子どもたち一人ひとりと丁寧にかかわることができた」、保護者から「感染から子供を守るには20人くらいがいい」などの肯定的な声が上がりました。20人で授業が受けられるようにすることが感染拡大を防ぐとともに、豊かな学びを実現することにつながることで実感されました。</p> <p>感染拡大防止対策として教室の「密」を避けるための少人数学級・授業が必要です。教室に「社会的距離」を確保するには20人程度で授業できるようにすることが必要と思われます。教職員も40人学級で感染防止対策をしながら、授業時間の確保に追われている状況にあります。「子どもも教職員もくたくたになっている」「消毒作業など過重な労働に加え感染拡大を招いてはならないという精神的な負担」など悲痛な声が上がっています。</p> <p>さまざまな課題を抱えた子ども達が増える中、一人ひとりにゆきとどいた教育を保障するため、全国の多くの自治体が独自に少人数学級を実施していますが、国による少人数学級は小2で止まったまま8年連続で見送られています。自治体独自の少人数学級は今年度も着実に前進しています。しかし、国による施策ではないため、自治体間格差が広がっていることも厳しい現実です。教育の機会均等を保障するためには、地方に負担を押し付けることなく、国が責任をもって少人数学級をすすめ、そのための教職員定数改善を行うことがきわめて重要です。</p> <p>いまこそ、「20人学級」を展望した少人数学級のすみやかな実現を求めます。以上の趣旨に沿って、下記について国に対する意見書を採択してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、緊急に20人程度で授業ができるようにすること。そのために教職員増と教室確保を国の責任で行うこと。 2. 「20人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は、標準法を改正し教職員定数改善計画を立てること。
紹介議員	長尾 明憲
付託委員会	福祉教育常任委員会